

▼OBへの手紙の書き方(模範例)

拝啓 啓蟄の頃、貴殿におかれましては益々ご清祥のことと拝察申し上げます。

このたびは、大変お忙しい中、お会いいただき、ありがとうございます。また、「作文を見てほしい」という無理なお願いをご承諾いただき重ね重ね、御礼の言葉もございません。さっそく指示されたタイトルで書いた作文を同封いたしました。よろしくご評価のほどお願い申し上げます。時間内に提出できなかったために、ご迷惑をお掛けいたしますことをお詫し下さい。

またこれとは別に以前に書いた作文「故郷」「他」「私が新聞社を志望する理由」の三本も同封させていただきます。返信用封筒を入れておきましたので、時間の合間に見て頂ければ幸いです。勝手なお願ひであります。三月二十日までに共同通信社に作文を送ろうと思っておりますので、なるべく早めにお目を通して頂きたくお願い申し上げます。ご無理ばかり申し上げますこと、幾重にもお詫び申し上げます。

時節柄、ご自愛のほどをお祈りいたします。

敬具

二〇〇×年〇月〇日

鈴木一郎様

早稲田大学商学部 山田太郎

●ポイント●

- 書き出しと結びに注意する。
「拝啓、〇〇の頃、貴殿におかれましては益々ご清祥のことと拝察申し上げます。」
- 書き出しの〇〇には気候を示す二十四節気を入れると、より丁寧な手紙と

なる。
二十四節気とは…太陽年を太陽の黄経にしたがって二十四等分して、季節を示すのに用いる語。中国伝来の語で、その等分点を「春」は立春(2月4日)、雨水(2月19日)、啓蟄(3月6日)、春分(3月21日)、清明(4月5日)、穀

雨(4月20日)と六つに分する。以下同様に、「夏」は立夏(5月6日)、小満(5月21日)、芒種(6月6日)、夏至(6月22日)、小暑(7月8日)、大暑(7月23日)。「秋」は立秋(8月8日)、処暑(8月24日)、白露(9月8日)、秋分(9月23日)、寒露(10月8日)、霜降(10月

23日～24日)。「冬」は立冬(11月8日)、小雪(11月23日)、大雪(12月8日)、冬至(12月22日)、小寒(1月6日)、大寒(1月20日)と名付ける。なお日付は正確には年によって微妙に違うため概略だ。

▼内定辞退の手紙の書き方(模範例)

拝啓 啓蒙のころ、貴殿におかれましては益々ご清祥のことと拝察申し上げます。

過日は、御社から内定を頂きありがとうございます。両親ともども大変、喜んでおります。

また、採用につきましては、人事の山田様からは度重なるアドバイスや入社後の手続きなど、細かい、ご配慮をいただき、重ねて、御礼を申し上げます。

さて、今回は大変、申し訳ありませんが、一身上の事情により、御社の内定を遺憾ながら、辞退せざるを得なくなりました。

御社が第一志望ではありましたが、両親や恩師などと相談した結果、大学院に進学することになりました。

書面で、大変、失礼とは存じますが、ご容赦のほどをお願い申し上げます。後日改めて、ご連絡させていただく所存です。

よろしくおねがいいたします。

また、時節柄、ご自愛のほどをお祈り申し上げます。

敬具

二〇〇×年〇月〇日

〇〇放送 人事部長 井上敬二様

慶応大学経済学部 伏見亮子

●ポイント●

1、今回はOBへの手紙よりも、より敬語や語彙に注意する。「所存」「遺憾」など普段は使わない文字を使うことで、「公式文書」としての「内定辞退通告書」の品位と誠意を相手側に伝える。

内定辞退の場合はまず、手紙を出す。それで

(説得の)電話がきたら、電話で謝る。また呼び出されたら、「考えさせて下さい」といったん電話を切って、相手の怒りが収まるのを待つ。それでも解決しないようであれば、数日後にまた電話して、訪問してお詫びということになる。

新聞社などは手紙だけで大丈夫なところが多い

が、辞退する際に企業によっては「きてください」といわれる。行けば、そこで説得されるので決意の固いことをアピールする。中には灰皿やコーヒーを投げつけられるケースもあるが冷静に処理することが肝心だ。

内定辞退は、人事担当者の「成績」にかかわるの

で余計に面倒だ。

また、通常は別の会社(本当の第一希望)の内定のことは言わない。人事同士の「懇親会」がだいたい業界ごとに年に一回はある。情報が漏れることはないが、なるべくは海外留学や大学院を理由にするのが無難だ。

▼補欠内定のお願いの手紙の書き方(模範例)

拝啓 小署のころ、貴殿におかれましては益々ご清祥のことと拝察申し上げます。
私は、御社の採用試験で、最終面接に臨みました●●●●大学の井上真希と申します。残念ながら連絡がなく、選考に漏れたと拝察しております。

今回は、最終まで進ませて頂きました御礼と、お願いがございましたお手紙を差し上げた次第です。さて、今回は自分なりに健闘したと考えておりますが、どの辺で、力が及ばなかったのか反省しております。

その第一は、焦るばかりで、新聞記者になるという気持ちの方が十分にお伝えできなかったことが敗因だと考えております。

さて、書面で、大変失礼とは存じますが、もし、内定辞退などで、補欠ができましたら、是非とも繰り上げ内定を頂ければ幸いです。

失礼なお願いで、また、そういう補欠繰り上げなどの前例があるのか、知らず、無礼とは思いますが、どうしても、毎朝新聞社の記者として働きたい気持ちには誰にも負けないと存じます。なにとぞ、ご配慮を頂ければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

また、時節柄、ご自愛のほどをお祈り申し上げる次第です。

敬具

二〇〇×年〇月〇日

毎朝新聞社 人事部長 横沢和人様

●●●●大学文学部 井上真希

●ポイント●

今回は上の2つの手紙よりも、敬語や語彙だけでなく、「熱意」を伝え、相手の同情を買わないといけないという難度の高い「公式文書」だ。

通常は「秋採用」があるため、春の時点であまり効果がない。

しかし、春採用でも「他

社に大量に流れる」など、人事の予測できない事態が起こった場合は「補欠」繰り上げをする場合がある。

阪東恭一も実は新潮社は「補欠繰り上げ」だった。内定者の中で2人が辞退したのだ。1人が毎日新聞、1人がTBSに逃げてしまった。そのために、

試験を2回やるよりも、最終面接が一番近かった人(15人受けて、6人採用の場合で7番とか)を繰り上げる方が簡単だ。アテネオリンピックの室伏広治選手(ハンマー投げ)のように銀だったから金に繰り上がった。つまりは「銀」にいないとダメ。無駄な場合もある。共同通信は春採

用で最終面接落ちの人は、秋採用でエントリーシート選考で「不合格」になっている。また逆に時事通信は、「補欠です」と受験生に手紙で伝えてくれる。ともかく、この種の手紙は「ダメモト」で出すことだ。そこを理解した上での「手紙作戦」と冷静になって書くことだ。